

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（議長）

それでは、次第に従って進めていきます。まず、案件1成果指標、活動指標における平成26年度実績報告について、事務局より説明願います。

（事務局）

案件1についてご説明します。資料1をご覧ください。この資料1は、第3期男女共同参画行動計画において、基本目標ごとに設定しました成果指標、活動指標をまとめたものです。第3期行動計画は、平成27年度からの10年間の計画ですが、参考までに平成26年度実績を入れた一覧表です。ここで、26年度の報告を一部させていただきます。

まず、基本目標Ⅰ男女平等の意識を育むについて、成果指標を4つ設定していますが、男女共同参画に関する市民意識調査の結果を指標としており、10年に一度の調査ですので省略しています。

次に、活動指標について、モアいずみ図書コーナーの年間貸出冊数は、平成36年度の目標を600冊としており、平成26年度は平成25年度に比べ若干下がり、444冊です。モアいずみは、男女共同参画センター10周年記念行事の一環として、市民に親しまれるような愛称を募集し決定した愛称です。モアいずみの認知度についても、10年後の市民意識調査では50%となるよう、男女共同参画センターに登録していただいている市民団体さんにご協力をいただきながら、更なる啓発に努めていきたいと考えています。

続いて、女と男のフォーラムと男女共同参画週間事業の参加率は、72.4%です。国では6月23日から29日までの1週間を男女共同参画週間とし、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念に対する理解を深める期間としており、本市では、「すーちゃん、まいちゃん、さわ子さん」の映画を上映しました。定員650人で参加者は417人、うち男性79人、女性338人でした。また、女と男のフォーラムは平成27年2月1日に開催し、第1部では腹話術師の、やない あつこさん、2部では講師、石蔵 文信さんに、「楽しく生きるためのミドルエイジからのパートナーシップ」をテーマに講演をいただきました。定員200人で参加者は198人、うち男性は52人、女性は146人でした。

次に、基本目標Ⅱ 男女平等の参加・参画で社会を活性化する、の成果指標について、和泉市審議会等への女性委員の参画率は、平成26年4月1日現在で34.8%と、第2期オアシスプランの33%の目標は達成しています。

続いて、事務職、技術職における女性管理職の割合ですが、平成36年度目標値を20%とし、平成26年度は13.3%でした。管理職188人のうち女性の管理職は25人でした。

続きまして、小中学校の教職員における女性管理職の割合、校長と教頭ですが、平成26年度は12.9%

でした。内訳は、小学校では21校中、女性の校長先生は3人、女性の教頭先生は4人です。中学校では、10校中、女性の校長先生は1人、女性の教頭先生は0人でした。

職場で男女が平等であると感じている人の割合については、男女共同参画に関する市民意識調査の結果を指標としており、10年に一度の調査ですので省略しております。

次に活動指標について、アドバイザー養成講座における男性の参加率は、平成26年度は30.5%でした。

続いて、女性を対象とした再就職支援講座の定員に対する参加率は、2回講座で50%でした。

次に、シルバー人材センターの女性会員の増加について、平成25年度534人から、平成26年度では571人となり37人増加しています。防災リーダー人数について、平成26年度から地域防災リーダーの養成講座を実施し、50人が参加し、うち女性は12人でした。

次に、基本目標Ⅲ自立を支えあうまちをつくる、の成果指標について、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度、次の指標、平日又は仕事がある日において男性が、家事、育児、介護に携わる時間が一日当たり1時間以上の人の割合、そして4つ目の、家庭生活上で男女が平等であると感じている人の割合につきましては、男女共同参画に関する市民意識調査の結果を指標としていますので、省略しています。

3つ目の、和泉市における男性職員の育児休業取得率につきまして、26年度は育児休業をした男性職員はいませんでした。

次に、活動指標について、心身の健康に関する、男女共同参画社会づくり講座の年間延べ人数は、2回の連続講座で58人でした。

続いて、平成26年度乳がん検診の受診率は25.9%で、25年度より5.5ポイント高くなっています。子宮がん検診の受診率は28.7%で、ほぼ25年度と同様の割合となっています。

基本目標Ⅳ人権が尊重される環境をつくる、において、成果指標については、男女共同参画市民意識調査の結果を指標としていますので、省略しています。活動指標について、女性に対する暴力をなくす運動啓発事業の定員に対する参加率は43%でした。以上です。

(議長)

資料1について、何かご意見はございますか。

(委員)

改めて資料を見ますと、成果指標とか活動指標の項目の6、7割は10年に一度の市民意識調査で結果が出てくるということで、真ん中の5年目というのが全く実績としては把握の仕様がなと思うが、その辺りの考え方として、予算も要ることだし5年目は要らない、10年毎でということでもいいですか。この中間点

では、数字が上がっているのか下がっているのか全く分からない。

(議長)

事務局、何か意見はありますか。

(事務局)

平成 25 年度実施の市民意識調査は、2 千人の市民を対象に調査をしました。この市民意識調査は 10 年に 1 度の調査であり、同じような内容の調査をしないと比較できないところもあるので、今の時点では成果指標については 10 年後と考えています。計画は 5 年をめどに見直しをしていきたいと考えております。

(議長)

その他ございますか。

(委員)

基本目標Ⅲのところでは和泉市における男性職員の育児休業の取得率というのがあるが、25 年度 6.3%であったのを 10 年後では 10%にしていきたいと目標を掲げているが、26 年度での実績報告では 0%でしたが、ちなみに一点目として 6.3%というのが何人だったのか教えて欲しいのと、二点目は、10%をめざすにあたって和泉市が持っている特定事業主行動計画でも見直しを行って目標を掲げているのか、またそれに向けての動きが示されているのかという点を教えて欲しい。

(事務局)

まず 25 年度 6.3%は 2 名でございました。26 年度は 0%ということで、もちろん特定事業主行動計画とオアシスプランとは整合性をもってしなければならないと考えております。人事課へは、育児休業の取得率 10%の目標に向け、特定事業主行動計画でも取り組んでいただくよう要望しています。

(議長)

他にございますか。

(委員)

26 年度の実績が、去年に比べてガクンと減っている項目が多いですね。これは何か原因があるのですか。例えばフォーラムの参加率も 10%減っている、再就職支援の講座も定員の半数しか来ていない、育休も 0 人になってしまった、DV 啓発事業の参加率も大きく減ってしまった。その辺りが気になるが、何か原因は分析していますか。

(事務局)

毎回、男女共同参画センターで行っている講座につきましては、市民にアンケートをさせていただき何が原因でこうなったのかを調査し、次回の講座の企画に生かすようにしております。また、今回データ

DV の講演会では保護者を対象に実施しましたが、対象を保護者ではなく中学校の子どもにするなどの見直しの検討をしております。また、DV の研修ですが、25年度には信田さよこさんに来ていただいたところ、著名な方ということでたくさんの方に参加して頂いたので、講師の先生、対象者などの点について、平成26年度を踏まえて平成27年度は実施していきたいと考えています。

(議長)

資料1はよろしいでしょうか。では、次の案件に移ります。オアシスプラン及びDV基本計画の進捗管理について、まず事務局から説明願います。

(事務局)

案件2についてご説明します。資料5-1をご覧ください。

第3期オアシスプランを実効性のあるものとするために、進捗管理システムを構築しました。年度当初に資料5-1の評価シートを関係各課へ配布しました。太線の黒枠のところ、今年度の事業予定を記載していただくよう依頼しました。関係担当課へは、進捗管理の見える化を図るため、数値目標を設定できるものについてはできる限り設定してもらうよう説明しています。今年度の実績につきましては、資料5-1の評価シート、太線の黒枠の下のほうにあります、事業報告、男女共同参画の配慮度、事業実施度、今年度の成果、課題、今後の対応などを記載してもらい、来年5月頃に実績報告をしてもらう予定としています。この評価シートは、各担当課において、具体的な事業ごとに1枚作成することとなっており、全部で約320枚あります。この評価シートの活動指標だけを一覧表にしたものが資料2です。また、事業内容を一覧表にしたものが資料3、資料4です。

資料5-1と資料2を見比べながらご覧ください。資料5-1において、原課における事業名①、活動指標名②、27年度目標③、平成31年度目標④、平成36年度目標⑤を資料2のように一覧表にしています。

次に資料5-1と資料3を見比べながらご覧ください。資料5-1で、現課における事業名①、事業予定における内容・詳細⑥、対象⑦、規模⑧、今年度の方向性⑨を資料3のように一覧表としています。資料4については、DV防止基本計画でございまして、オアシスプランと同様に、評価シートを送付しており事業内容を一覧表にしたものです。今後の進捗管理として、見える化を図るということで、活動指標、実績の事業内容を経年比較できるよう管理していきたいと考えています。

資料5-2をご覧ください。活動指標について経年比較できるよう、このような一覧表で管理していきたいと考えています。

資料5-3をご覧ください。各部署からの事業内容の報告・実績をこの一覧表で管理し、経年比較していきたいと考えています。

資料5-4をご覧ください。実績報告のときに、評価シートで男女共同参画の配慮度、事業実施度を報告していただくように考えており、このようにグラフ化していきたいと考えています。以上です。

(議長)

それでは、資料5の評価シートについて記載方法等について、何かご意見ございますか。

(委員)

資料5-1の③、④について、平成36年度と31年度のところで、27年度、28年度、29年度と続いていて、これについて最初、わかりにくかったのですが、平成36年度と31年度の目標値に向かって事業を実施し、各年度の実績値を書いていっていただくということで、目標値は変わらないのかと思っていたのと、あと、平成36年31年の目標の実績値は何が入るのでしょうか。

(事務局)

委員のご指摘がございましたが、平成36年度の目標と平成31年度の目標はあくまで目標値であり、下に実績値は入らないです。平成27年度の目標値を設定し、平成27年度事業が終了したら実績値がどうなったかということで、平成27年度の下欄に数値をいれていただく。次に、翌年度は平成31年度の目標に向かって、平成28年度の目標数値を設定していただき、その翌年には実績値を入れ、経年比較ができるような表にしております。平成36年の目標と平成31年の目標の下欄には実績が入らないので、ここは何らかの形で方策を考えます。

(委員)

ということは、平成28年度の目標値は平成31年度の目標値と変わってくる可能性があるということですか。

(事務局)

5年後の目標として平成31年度の目標を設定し、10年後の目標を定めているので、ここは変わらない予定です。なお、実績が平成31年度の目標を超えたとしても、10年後の平成36年度目標があるので、あくまで最終的に10年の計画なので、平成36年度の目標に向かって平成28年度事業の目標値を設定していただくようになります。

(議長)

つまり、毎年目標を定めていくということですね。他に何かご意見はありますか。

(委員)

事業予定の対象の右側の、「規模」というのは何ですか。

(事務局)

これは例えば講演会を実施する際、定員を何人にするとかという意味で、ここは数字が入ってくる場合と入ってこない場合があります。

(議長)

他には。先ほど委員がおっしゃっていた何で数値が減ったのかという分析等は、一番下の今年度の成果取組上の課題今後の対応の欄に出てくると思います。それを毎年管理して行くことになると思います。

(委員)

26年度の実績が下がったというのは気になっていますが、1年で見るとではなく、評価シートのように経年で5年といわず3年で一度、評価のチェックをして数値を出してみて、4年、5年目の各年の目標値に向けて分析をしていってはどうか。数値が今後上がるのか下がるのかが難しい事業もあるので、3年目くらいで細かく分析をした方がいいと思う。この評価シートは大変良くできていて、最後の頁に分析グラフが載っているが項目によってはかなり明確に改善点に分かるのではないかと思います。

(議長)

他にありませんか。

(委員)

最後の資料5-4のグラフですが、右上に5とか10とか3とか2の数字が出ていますが、これはN数ですか。例えば1の男女共同参画の視点をしっかり持って取組むことができた、28年度は5、その2番が10、3、2とありますが、これはN数ですか。

(事務局)

担当部署の具体的事業ごとに1枚のシートを作成しており、その蓄積になるので、例えば、4つの基本目標があるのでその中でそれぞれの事業ということで具体的な事業を原課のほうでやっていただいております、そのシートの数になります。

(委員)

全体にたくさんの項目があり、仮に300あったと、そしてこの事例であがっているグラフというのは、300全て1、2、3、4、のよくできた、できていないまでも含めてチェックをしていってそのN数を積み上げて行ったのが、最終的にこの年度のグラフに繋がるということですね。

(委員)

最初のシートの下から3番目の項目で、今年度の事業実施度があって、ここに1、2、3、4と4つの選択肢があるので、これのどこかに当てはめるということですね。

(事務局)

そうです。オアシスプランとDV防止基本計画ごとに集計し、グラフ化していきます。

(議長)

他にありませんか。では次に、オアシスプラン及びDV防止基本計画における平成27年度事業予定について、事務局説明願います。

(事務局)

それでは、案件3についてご説明させていただきます。

資料2をご覧ください。先ほど説明させていただきましたとおり、活動指標の一覧表でございます。

活動指標につきまして、委員の皆様方から様ざまなご意見をいただき、ありがとうございます。この活動指標につきましては、委員皆様方のご意見を踏まえ再度点検、精査していきたいと考えております。

資料3につきましては、先ほど説明させていただきましたとおり、オアシスプランにおける各課の事業内容を一覧表にしたものです。資料4については、DV防止基本計画における各課の事業内容を一覧表にしたものです。各課の事業内容の個々の説明は時間の関係上、省略させていただきます。また、委員皆様方のご質問、ご意見に対しましての市の考え方につきましては、事前に郵送させていただいておりますので説明は省略させていただきます。本日、委員皆様方のご意見をいただき、7、8月頃に関係担当課とヒヤリングを実施してまいりたいと考えています。

(議長)

資料の2、3、4、をまとめて一括でご意見をいただくようお願いいたします。

(委員)

資料3-4ページ、スクールソーシャルワーカーですが、規模のところで市内全10中学校、13小学校とありますが、合わせて23校これで全部ですか。上に市内小中学校31校と記載されていますが、なぜ23校ですか。

(委員)

スクールカウンセラーは、全ての小学校に配置とはなっていないので、その辺りの関係で31校にはなっていないのではと思います。

(事務局)

市内の小中学校は合わせて31校ですが、校区毎に一名配置していると聞いており、全校に配置しているということではございません。

(委員)

分かりました。是非全校に配置していただきたいと思います。

(委員)

活動指標について、数字が確かなものでないと進捗を図って見える化というのも生きてこないのではないのかなと思うので、この評価シート、評価方式を取り入れたというのも素晴らしいと思います。それが生きていくためにも数字の再精査をしてほしいと思っていますので、改めて要望として出させてもらいます。それから、原課とヒヤリングをしていくという形で、この先どうなっていくのかちょっと見えない状況ですが、例えば3ページのシティプラザ図書館の貸出点数について、この数字が5年後、10年後ともに1,000点以上になっています。現状は23年度420点で、26年度で1,113点ということで、3年間で3倍弱に増えており、これは5年後、10年後も1,000点以上という設定はもう一度ヒヤリングしますということですので、変わっていくのかなと思います。なぜなら、シティプラザの男女共同参画センターの認知度がまだまだ低いという状況の中で、男女共同参画センターにある図書コーナーはまだかなり弱いと思います。そこにたどり着けない人達が、シティプラザ図書館でそういった類のものに出会っていくというのはとても大きな要素ではないかなと思います。また、年間の購入図書数も10年間で20冊以上となっているが、それでは不十分なので、是非とも積極的に変わっていただきたいと思います。4ページの女性職員と学校における女性の校長等の管理職について数字が示されており、例えば、資料2の10ページで、活動指標では女性職員及び女性教員の管理職への登用というところで、女性リーダー研修の参加者数が27年度0人、5年後10人、10年後10人となっていて、職員の管理職率13%、15%、10年後20%、学校では10年後30%をめざすという数字の妥当性について疑問に思いました。事業一覧も各年実施ではなかなか届かないのかなと思うので、再検討していただきたい。事業一覧の方向性が1から5まであり、2というのは継続をしていくという評価ですが、2は多すぎると思いました。継続は現状でいいということなら最低限必要ですが、たくさん抱えている中で強化・充実、改善、見直しあるいは新規で、というのが増えていったらいいなと思っていますが、その辺りもこれからの作業になるのかなと思いますが、とても大変ですが、立派な計画を作ったからはそれを生かす方法を探っていっていただきたいと思います。

(議長)

この質問を見ていると確かに数値にあまり変化がないのではないかという意見が結構多かった。一概に数値表示をするのがいいのかという意見もありました。数字そのものよりも割合表示の方がいいのではないかという意見も所々見受けられたように思うので、大きくその3点についてご指摘があったのでその点、事務局でも検討していただきたいと思います。他にありませんか。

(委員)

全般論ですが、全体的に非常に細かくできている割にはトレースしていくことは大変だとは思いますが、ただ全体にメリハリがない様に思います。2 継続ばかりだというご指摘もありましたがその通りだと思います。継続というのは現状維持であって、何もしない、今のままで行くというようにも受け取れます。本当に問題があれば、当然、改善・見直しをしていくべきであるし、もっと27年度はこのポイントをもっとやろうと思えば1 強化・充実という数字が出てこないといけないし、まったくできていなくて新たに出てくるのなら5 新規だろうし、そこがもっと増えないと、現状維持ばかりで右から左へずっと流れて行くような気がします。この点は各課にもう一度話をするとき、担当課としてどれを一番優先するのか、どこに問題意識を置くのかという様に変えていくべきでないかと思います。そうしないとメリハリがつかないと思います。

(議長)

この点に関して、事務局として何か意見はありますか。

(事務局)

例えば、指導室の場合、全校に向けて継続的に実施していくことも必要であると考えており、確かに強化・充実も必要ですが、各関係課におきましてはこの目標に対してやり続けるという意味での継続もあります。そこは、委員のご意見を踏まえまして、原課とヒアリングを行ってまいります。

(委員)

以前から申し上げているとおり、各施策に優先度をつけていくことが必要だと思います。いろいろな施策がたくさんある中で、今年度は何に重点を置いて何を積極的に進めて行くのかというのを決めたほうが成果は上がると思うし、そのことは以前から申し上げてきました。

(委員)

それは同意見ですが、男女共同参画の視点でこの計画を策定する時に、私たちが昨年1年かけて議論した中には男女平等というところで強化していこうというのと、ワーク・ライフ・バランスが大きく取りざたされたと思います。原課に持って行くときに原課の事情もあると思うが、男女共同の視点でこの項目について特に力を入れて欲しいというのがあると思うので、例えば審議会の女性委員を増やして欲しいという点や、女性の管理職への登用や、商工労働室ではセクハラ、パワハラ、マタハラというような分野について、何らかの手立てをして欲しいとか、地域活動においては男女で盛り上げていきたいと思いますとか、この計画で強化したい点を昨年、かなり議論しました。その項目について各課で特に重点目標として取組んでいただけないかをヒアリングで協力をお願いしたほうが、少しは数値も上がってくるのではないかと思います。

(議長)

他には。

(委員)

資料3の1ページの事業一覧の中に、府からのパンフレット等を配布するとか、文部科学省の情報を提供するとかありますが、市独自としてはそれを使ってどうするとか、もう少し独自の積極的な取り組みをしていただきたいと思います。それと、3ページのインターンシップのところですが、積極的に受け入れますとありますが、人数は一人です。もし受け入れが一人を超えた場合の考え方とか、またその実績はどのくらい受け入れているのか教えていただきたい。

(事務局)

府からのパンフレット等を配布するという点ですが、啓発の仕方については例えば広報いずみであるとか、全市民に分かるような啓発が必要であるということから、毎年、工夫しながら実施していきたいと考えています。3ページの市役所においてインターンシップの受け入れですが、男女共同参画センターでは去年から初めて受け入れしており、できるだけ毎年1名を受け入れ、学生さんに男女共同参画の仕事に関わっていただき、男女共同参画を勉強するきっかけになったらいいなと考えています。今後は今年度の方角性ということで継続して行うこととしており、毎年1名が来るような体制になれば、要望があればできるだけ受け入れをしていきたいと思っていますので、これは今後の課題とさせていただきます。

(議長)

他にはないでしょうか。

(委員)

強化・充実とか継続とかというところで継続が多いという意見を出させてもらっているが、今年目標をこうして書いていただいているので、今年が終わって評価シートが出されてきた時に評価シートを上手く使って、成果とか数字が下がっているところとか、目標に届きにくいところとかきつところとかは改善していただくようにとか、強化していただくように話し合いの機会を持っていただくとか、原課から提出して終わりというのだけではなく、数値とか実績を見ながら強化して下さいとか言ってもらおうと進むのではないかと思います。

(事務局)

進捗管理システムで、平成27年度から評価シートを作成いたしましたので、ここには来年、事後報告をするときに、今年度の実績を報告し、男女共同参画の配慮点であったり、事業の実施度について原課で事後評価も行います。平成27年度の課題を平成28年度でどのようにクリアしていくのかをシートを使

って進行管理していきたいと思っております。今年度の方向性につきましては継続ということで出てきておりますが、原課は今まで行っていないというのではなくて、ずっとやり続けるということも必要だと思っております。そこは評価シートを使いながら今後の課題を克服するにはどうしたことをしていくのかということでヒアリングを行い、このシステムを利用しながら、関係担当課に対して男女共同参画の視点を入れてメリハリをつけてやっていただくよう、努めていきたいと思っております。

(委員)

そうすると、毎年度ごとのスケジュールですが、評価シートの下の方に事業報告だとか反省点、分析とかあるが、翌年5月ですか？一体、どの時点でこのシートを出してもらおうのですか。

(事務局)

3月末で事業が終了しますが、4月は原課も人事異動などもあるので余裕をもって資料を作成していただくため、5月中には評価シートを作成していただいて提出していただこうと思っております。

(委員)

で、それをまとめて6月に審議会で目にできる、しかし、その時点で既に次年度というか今年度の目標が出ている段階で自分たちが意見を言うというのは少し遅いのではないのでしょうか。もう少し早く分かるようにできないのでしょうか。確かに年度は3月末で終わるのだけど、その時点で分かるものもかなりあるのではないのでしょうか。もっと早い目に分かりませんか。

(事務局)

原課のほうは年度末で一旦事業が終わりますので、実際には3月でまだ事業を実施している場合があるので、確定した数字は4月に入ってからでないとは出してもらえない。予定ということであれば出してもらえますが、これだと再度調査しないとイケなくなるので、やはり5月頃になると思います。

(委員)

5月の段階で、既に動き始めている年度の目標も併せて出てくるのですね。どの時点でヒアリング等で課長などが意見を言えるのですか。

(事務局)

ヒアリングについては毎年夏頃を予定しています。というのは、次年度の予算確保の問題もあり、予算までにはヒアリングをしていきたいと思っております。来年度は、平成27年度の実績と平成28年度の事業予定を含めて、夏頃にヒアリングをしたいと思っております。

(委員)

4月1日には人事異動があるので、多分3月31日までに今年度の事業が終わると思うので、前年度の

担当者に今年度の事業の評価について記載してもらってから異動してもらおう。次の事業予定表については新たなメンバーでしていただけたらいいんですが、新たな事業計画を立てるまでの間にこのシートを4月の中頃までにまとめていただき、審議会でチェックできるような体制があればいいと思います。そんな作業をするのは大変ハードだが、そのような方向で努力していただき、5月以降には新たな事業計画を立てるときに我々の意見を踏まえてもらおう。4月はそんなに事業は余程のことがない限り新年度事業はしていないと思うので、5月以降に各課が次年度の事業計画を立てるときに我々の意見が反映されるようにしていただきたい。5年間の目標が実際には3年くらいの期間で実施をして評価を出すような形になるので、それはできるだけ避けていきたいと思います。

(委員)

目標の決め方、アクションの起こし方が例えば1年遅れとか2年先とか、こんなことをしていると民間なら会社がつぶれます。26年度の1、3月くらいでほぼ来年度の計画を作らなければならない。完全に結果はできなくてもずっとトレースしていればある程度見込みのつくものと実績の出ているものがあるのだから、全て100%出ないと次の行動に移れないというわけではないのだから、先ほどの重点目標とか力を入れるところとかをハッキリしておけばもっとやり方が楽になると思います。3月中までにめどをつけて、4月からの予算に反映させておかなければならない。行動計画も4月、5月は何もなくて、6月くらいにやっと出てきてスタートしても下半期くらいでやっと実施となる。これではダメで、もう少しやり方を工夫してもらわなければならないと思います。

(事務局)

いろいろなご意見をいただき、ありがとうございます。現実的に事業は3月末で終了しますので、予算の伴わない実績は把握できますが、予算を伴うものは出納閉鎖期間が5月末なので、いくら予算を必要としたのかは5月末で閉めないときちっと出ません。ただ、3月に実績が出ますので、早期に把握し早期に目標設定をして委員の皆様にお示しさせていただくというのがベストだと思いますので、今後、時期の問題につきましては、内部で検討させていただきますので、よろしくお願ひします。

(議長)

他にご意見はございますか。

(委員)

例えば、皆さんの意見でセクハラ研修への参加率について、消防と上下水道部で数字に差が出ているという、例えばセクハラ研修を各々の課でしているのか全体でしているのか分かりませんが、同じ研修をいろいろな所でやっているというのが計画の中に若干あるように思います。あちこちで同じようなことをし

ているのを縦割りではなく、横軸で一緒にやればすごく効果が上がると思います。事業をする場合は、昨年、自殺対策が出ていましたが、保健センター、男女共同参画センター、商工労働室が一緒になった研修で超過勤務などの労働形態を見直しましょうというようにやっていくともっと違った成果が出るのではないかと思います。是非とも関係課が連携して研修や、いろいろな事業が展開できるような考え方もヒアリングの中で言っていたきたい。

(委員)

岸和田女性センターの講座を聞く回数が結構多いのですが、ある時 DV 講座でしたが職員研修としていろいろな部署から職員がたくさん参加していました。それを見ていいシステムだなと思い、どんどん利用していったらいいなと思いましたので、検討していただけたらと思います。それと、一点だけこれは絶対数値を増やしてもらえないかなと思ったのは、男女平等教育の推進とか性にとらわれない人権の尊重とかポジティブアクションについては、モアいずみ通信で年一回掲載・啓発していきますと、これは5年後、10年後も同じく年一回となっていますが、モアいずみは毎月発行しているということなので、いろんな状況を使ってこういったことに触れていくのは可能だと思うので、年一回なんて書かないでほしいと思うし、2つとも原課とのヒアリングが必要なものでもないので、是非とも取り組んでいただきたいと思います。多分、ワーク・ライフ・バランスについても、モアいずみ通信については年一回であろうと思うので、同様に対応していただきたいと思います。

(議長)

他にご意見はありますか。

(委員)

パープルリボンが新しく使われるとお聞きしました。今までに見たことがなかったので、今後パープルリボンをどのように活用していくのか。オレンジリボンはよく見かけるのでそのようになって欲しいという願いを込めてお聞きします。

(議長)

事務局として何か意見はありますか。

(事務局)

パープルリボンは女性に対する暴力の根絶を訴えるもので、リボンの作成にはそんなに予算もかからないと思います。予算が大きく削減されている中、啓発について、やり方を見直す時期にきてますので、リボンを作って職場に配布して付けてもらうことから始め、市民さんにも DV 防止の期間、リボンを付けていただくなど、啓発の仕方の見直しを図っていきたいと思います。

(委員)

目につく所にたくさんあると、紫のリボンって何だろうと気づいてもらえるので、いろいろな所で見かけるようになればと思います。

(議長)

本日は、具体的なお意見をたくさんいただきましたので、事務局にはヒアリング等に生かしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。これで第1回男女共同参画審議会は終了とさせていただきます。